

2019年度後期(第23回) 2級 実技(論述)試験 解答の要素

問1 相談者がこの面談で相談したい「問題」は何かを記述せよ。(20点)

*相談者(CL)の発言の中から、「根拠」を示して記述します。

-
- ① CL1から、「そろそろ就職先のことも考えないといけないが、いろいろと迷ってしまっている。」
- ② CL2から、友人と比べて「自分は夢を追っているだけで現実的ではないのかなど、思い始めている。」
- ③ CL4から、「大手住宅メーカーだと自分のやりたい仕事ができない気がして、興味が持てない。」
- ④ CL5から、「安定した会社の方が何かと安心」なので、「新卒の時は大手の会社に入った方がいいのかなど思ったり」している。
- ⑤ CL6から、「自分のやりたいことにこだわって、就活がうまくいかなかったときのことを考えると怖いし、ゼミの希望も「いろいろ考えないといけないことが多くて悩んでいる。」
-

問2 キャリアコンサルタントとしてあなたが考える、相談者の「問題」は何かを記述せよ。(20点)

*①自己理解、②仕事理解、③長期のキャリア・ライフプラン、④コミュニケーション、⑤性格や考え方の特徴(自己肯定感・自己効力感)などで、考えていきます。

-
- ①自己理解に関して:「夢だけを負っているのは現実的ではない」や「自分のやりたいことにこだわって」などとしており、自分の能力・適性や興味・関心について正しく理解していない。
- ②仕事理解に関して:「大手住宅メーカーだと自分のやりたい仕事ができない」や「新卒の時は大手の会社に入った方がいい」としており、就職する業界や企業の研究、就職後に担当する仕事の内容などについての理解が十分ではない。
- ③長期のプランに関して:卒業後のキャリアプランだけでなく、大学での就活のやり方や履修するゼミの選択方法などについて、見通しを立てていない。
- ④コミュニケーションに関して:将来の進路だけでなく、ゼミの選択や就活の方法などについて、友人や先輩、大学の教員やキャリアセンタースタッフ、個人事務所や大手の会社で実際に働いている学科のOB・OGなどに相談していない。
- ⑤考え方の特徴に関して:「就活がうまくいかなかったときのことを考えると怖い」や「いろいろ考えないといけないことが多くて悩んでいる」との発言から、行動する前に悲観的に考えてしまう思考傾向がある。
-

問3 あなたは、上記2つの「問題」を合わせ、相談者を援助するために、①どこに目標をおいて、②どうい
うことを実施したいか、目標と具体的な方策を記述せよ。(60点)

*目標は、問1と問2を総合したものであること(問1で示した「相談者が訴えている問題」と問2で示した「キャリアコンサルタント視点で捉えた問題」を解決する目標であること)が必要です。

「具体的な方策」は、その「目標」の記述と関連づけながら、具体的に、もれなく記述してください。

【目標】相談者が自分の能力・適性を理解し、就職した先での仕事のやり方、中長期のキャリアプランやライフプランなどを考えてもらう。今後の活動について、友人や先輩、教員やキャリアセンタースタッフなどに相談し、長期のキャリアプランの視点も見据えながら、自己効力感を高め、進路選択やゼミの選択について適切に意思決定ができるように支援する。

【具体的な方策】

相談者の話を傾聴して関係構築を深め、将来の進路選択や履修するゼミの選択について相談者が迷っている気持ちや不安な気持ちを受け止めたうえで、

- ①自己理解について：相談者が卒業後にやりたいことや出来ること、興味や関心を理解してもらうために、建築学科を選択した理由や大学での学びに対する評価を聴いたり、必要に応じて、職業興味検査などのアセスメントを実施する。それらを通じて、自身の能力・適性、興味・関心などを確認する。
 - ②仕事理解について：就職先を選定する際の判断材料にするため、個人事務所と大手の会社のそれぞれについて、仕事の内容や進め方、人材育成の方針や姿勢、学生の就職状況などを自身で調査したり、実際に働いている人や教員、大学関係者などに訊いたりして、理解を進める必要があることを伝える。
 - ③長期のキャリア・ライフプランについて：就職後に自身がやりたい設計業務の内容を把握し、それをいつごろまでに、どのような形で実現していくかを、長期的な視点で考えてもらう。履修するゼミの選択についても、将来設計から考えて、どのゼミを履修するかを判断する材料にしてもらう。
 - ④コミュニケーションについて：就職先の選定やゼミの選定などについて、自分一人で悩むのではなく、友人や先輩、大学の教員やキャリアセンタースタッフ、個人事務所や大手の会社で実際に働いている学科のOB・OGなどに相談することの重要性を伝え、具体的な方法を一緒に考える。
 - ⑤性格傾向について：これからのことについて不安を感じていることから、自身がやりたいことを実現するために、一歩ずつ行動することの重要性や必要性に気づいていただく。
 - ⑥相談者にこれらの点について気づきを促すための働きかけを行うことで、相談者が就職後の進路選択や履修するゼミの選択などについて適切な意思決定ができるように支援する。
-